

まつぼっくり



宇城市立三角小学校
学校だより 第72号
文責 校長 西村羊治
令和8年1月30日

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」

いのち

命あるもののいつかはなくなります。それはわかっていることです。推定で46億年生きている地球もいつかは命つきます。太陽もそうです。私たち人間もそうです。日本人の平均寿命は約84歳です。私の両親もこの5年の間に亡くなりました。とても悲しかったです。私は次男坊で反抗期がしっかりあり、親に反発したことが確実にありました。で、大学は絶対家を出なくて県外に行きました。しかし、そこで親のありがたみがやっとわかりました。今こうして仕事ができるのも両親のおかげです。感謝しても、今ではそのことをきちんと伝えることはできません。仏壇の前で伝えるだけです。

今日の熊本日日新聞の記事に自殺者数が掲載されていました。とんでもない数です。日本の去年の交通事故死者数は全国で2547人です。これもとても多い数です。しかし、自殺となるとそれを大幅に超えて19097人にもものぼります。その内、小中高生は532人です。運あって奇跡がおこりこの世に授かりし命、必要のない命など一つありません。世界中の人の命は皆大切です。ゲームではないので命は復活しません。亡くなった人には二度と会えないのです。私の恩師・同級生・教え子で亡くなられた方がおられます。やはりショックで悲しい出来事でした。命あるもののいつかはなくなります。その自然に逆らうことはできませんが、事故や自死など悲しい出来事は回避できるかもしれません。そのことを強く願い世界中の人々の大切な命を守れる世の中になることを切に願います。

授業に集中する子ども



日常

今日も朝から運動場の草取りをしました。私の健康法の一つです。子どもたちが使いやすい運動場になるようにと一石二鳥の考え方をしています。30年近く続けてきた土日のない部活動生活をしてきて、管理職となり部活動のない生活に入っています。運動不足になるのは必然です。ただ複雑な心境になります。上記に書いた命のことです。植物にも命があります。草を取るということは草の命を奪うことです。世界では開発などのために森林の伐採が進み砂漠化が進行しています。植物は、人間を含む生物にとって必要な酸素を作り出す大切な生産者です。ただ、学校経営上・学校運営上、運動場の整備は必要です。私は複雑な心境で草取りをしています。結局のところ子どもたちのための、学校の環境整備です。朝ですから私が草取りをしていると子どもたちが登校してきます。ほとんどの子が「おはようございます。」「校長先生、おはようございます。」と私に伝わるように遠くからや後ろからも大きな声であいさつしてくれます。やはりあいさつはいいですね。人と人とのつながりの最たるものです。私もあいさつを返して気持ちよくなります。朝からの草取りは、一石二鳥ではなく一石三鳥にも一石四鳥にもなります。

日常の何気ないことですが、子どもたちとふれあえる貴重な時間です。この大切な日常をこの三角小学校で子どもたちや各職員とで継続していきます。

朝登校して元気に遊ぶ子ども

